

日本における野球選手の肘離断性骨軟骨炎に対する手術治療の現状に関する研究

※診療の過程で得られた既存情報の提供のみを行います。

1. 研究の対象

2018年1月～2019年12月の期間内に当院で手術加療を行った肘離断性骨軟骨炎の野球選手

2. 研究目的・方法

・肘離断性骨軟骨炎（以下OCD）の治療にあたる医師の背景と治療方針、手術症例の内容と症例数を全国的に調査することで、現在の日本における肘OCDの治療の実態を研究する。

・昨今議論が盛んな投球制限の効果を評価する一つの方法として、導入前の実態を先行的に研究すること。

方法：データの収集はWEB調査票にて行う。集計された結果は、NPB事務局が、システム上医師名、所属施設名、届出書を除外したデータを共同研究者へ送付し、研究担当者は、匿名化されたデータを解析する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

対象者の専門、経験年数、症例経験数などの背景を問う質問、共通症例提示により治療方針を問う質問、実際の過去2年間の手術症例について、患者さんの年齢、カテゴリー、ポジション、左右、損傷程度、術式などを問う質問に回答してもらう。同意意思がないものは回答する必要はない。

4. 外部への試料・情報の提供

保管場所は日本野球機構の事務所内とし、アンケート回答データはkintoneクラウド上に保管（アクセス権限を限定、不正侵入、データ取出、書換など全てのログを記録する）。kintoneからの出力データ（パスワードロック）は外付けハードディスクに保管する。國學院大學の規定に従い、研究成果の公表から10年間保存される。

5. 研究組織

國學院大學 教授 富田一誠

日本野球機構 加古明美, 清水菜奈美

京都府立医科大学 木田圭重

徳島大学 岩目敏幸

山形大学 宇野智洋

高島平中央総合病院 可知芳則

JCHO 大阪病院 轉法輪 光

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都中部総合医療センター 患者相談係

研究責任者：

京都中部総合医療センター 整形外科 副部長 琴浦義浩

-----以上